## 7897 次業 東海道 53 次:三重県・関宿 421

昭和59年12月10日選定 東の追分 関が歴史に登場するのは、7世紀この地に「鈴鹿関」が設け られたのがはじめてで、これが地名の由来ともなっています。 慶長6年(1601)徳川幕府が宿駅の制度を定めた際、開富は 東海道五十三次で四十七番目の宿場となり、問屋場や陣屋なども整 えられました。古文書によると天保14年(1843)には家数632軒 naか 本庫2、脇本庫2、旅籠屋42があったとされ(東海道宿村大概候) 鈴鹿峠を控えた東海道の重要な宿駅として、また伊勢別街道や 大和街道の分岐点として、江戸時代を通じて繁栄しました。 ここ東の道分は伊勢別街道の分岐点で鳥居は伊勢神宮の 式年遷宮の際、古い鳥居を移築するのがならわしになっています。 江戸方への次の宿は亀山宿です。道標には外宮(伊勢神宮) まで15里(60キロメートル)と刻まれています。

## 山はみどり 野に花 人にはこころ





人がいない時間帯、パチリ